

自分や家族の備えは できていますか？ 日常生活の中に 防災を



☎ 防災課防災計画係 ☎95-9874

近年では毎年のように全国各地で大規模地震が発生しており、碧南市でも、広範囲で甚大な被害をもたらすと予想されている南海トラフ地震の発生が危惧されています。今後30年間の発生確率は70～80%と言われており、大地震はいつ起きてもおかしくない状況です。また大地震が起きれば、津波による被害も想定されています。

災害に対して事前の備えがあれば、被害を大きく減らすことができます。自分や家族の身を守り、地域で助け合うために、できることは何かを考えてみましょう。

1 災害の情報はどこで知ることができるの？

へきなん防災メール

どこでも迅速に防災情報を受け取れるよう、携帯電話やパソコンへ様々な防災情報をメールで配信するサービスを行っています。あらかじめ登録したメールアドレスにメールが届き、いつでも登録、解除できます。

登録は無料ですが、メール受信にかかる通信料は利用者負担です。通信環境などにより、リンク先へのアクセス及びメール受信に時間がかかる場合があります。

日本語での配信情報

気象情報 気象警報など

防災情報 地震情報、津波情報、避難に関する情報など

火災情報 市内の火災情報

外国語など（英語、ポルトガル語、やさしい日本語）での配信情報

気象情報 気象警報など

防災情報 地震情報、津波情報

登録方法

以下の2次元コードを読み取るか、各アドレス宛に空メール（件名、本文不要）を送信し、返信される仮登録完了メールから本登録してください。言語ごとに登録する必要があります。また、迷惑メール防止機能を使用している場合、登録する前にhekinan-city@raidan.ktaiwork.jpからのメールを受信できるように設定してください。



日本語

bousai.hekinan-city
@raidan.ktaiwork.jp



やさしい日本語

yj-bousai.hekinan-city
@raidan.ktaiwork.jp



英語

be-bousai.hekinan-city
@raidan.ktaiwork.jp



ポルトガル語

bp-bousai.hekinan-city
@raidan.ktaiwork.jp



緊急速報メール

災害発生時に避難指示など、特に緊急性の高い情報を迅速に提供するため、緊急速報メール（NTTドコモのエリアメール・au・ソフトバンク・楽天モバイルの緊急速報メール）を運用しています。

対応機種携帯電話へ、市からの災害情報を緊急速報メールで市内に一斉配信します。情報配信時に通勤や通学などで市内を訪れている人へも配信されます。配信できる情報は特定の緊急性の高い情報に限定しており、気象警報などは配信しません。また、機種により緊急速報メールを受信できない場合や、受信設定が必要となる場合があります。

ピッチ エフエム
Pitch FM 83.8MHz

災害時に持ち運びができ、停電中でも使用できるラジオは、情報を得るための最も有効な手段です。Pitch FMは、碧海地域を中心に地元の情報をラジオ放送しており、災害時には、各市の災害対策本部と連携して災害情報が放送されます。地震や台風など災害時にはPitch FMを利用してください。

また、ラジオを受信しにくい場合でも、インターネットを介してパソコンやタブレット端末、スマートフォンで放送を聞くことができます。

無料スマートフォンアプリ「FMプラプラ」の「KATCH&Pitch地域情報」

KATCH災害情報サイトの情報を「見る」、Pitch FMのインターネットラジオ放送を「聴く」という2つの機能に加え、市や警察署が発信する地域の安全・安心情報もプッシュ通知で届けます。



ウェブブラウザ (Safari, Chrome, Firefox, MicrosoftEdgeなど)

ホームページを閲覧するためのウェブブラウザで直接再生ができるようになりました (スマートフォン、タブレット端末も対応)。Pitch FMホームページのインターネットラジオのタブからブラウザ版プレーヤー再生ボタンから聞いてください。

停電情報お知らせサービス (中部電力パワーグリッド㈱)

停電情報をスマートフォンのアプリで確認できます。また、電気に関する困りごとをアプリ内のチャット機能で相談することもできます。また、中部電力パワーグリッド㈱のホームページでも確認することができます。



2 家庭でできる備えは何ですか？

避難所の再確認

災害時や大雨・暴風警報などが発令された場合、市では状況に応じて被災する恐れのある人たちのために以下の避難所を開設します。災害の種類によっては浸水するために使用できなくなる避難所もあるので、ハザードマップなどを確認して自分の住んでいる地域や勤務先付近の避難所と避難経路を家族などで話し合い、再確認しておきましょう。

避難所の開設の状況は、市ホームページやへきなん防災メール、ケーブルテレビKATCHなどで確認できます。

避難所名			津波	洪水	高潮	避難所名			津波	洪水	高潮
1	新川小学校体育館		○	○	○	18	鷺塚小学校体育館		○	○	○
2	新川公民館		○	○	○	19	鷺塚公民館		○	○	○
3	羽久手保育園		○	○	○	20	荒子保育園		○	×	×
4	碧南工科高校体育館		○	×	×	21	西端小学校体育館		○	○	○
5	中央小学校体育館		○	○	○	22	西端区事務所		○	×	×
6	中央中学校体育館		○	○	○	23	農業者コミュニティセンター		○	×	×
7	保健センター		○	○	○	24	勤労者体育センター		○	○	○
8	大浜公民館		○	○	○	25	新川中学校体育館		○	○	○
9	大浜小学校体育館		○	×	×	26	新川保育園		○	×	×
10	南部市民プラザ		△	△	△	27	文化会館		○	○	○
11	棚尾小学校体育館		○	○	○	28	天道保育園		○	○	○
12	棚尾公民館		△	△	△	29	南中学校体育館		○	×	×
13	前浜集落センター		△	△	△	30	臨海体育館		○	△	△
14	川口農業センター		△	△	△	31	棚尾ふれあい館		△	△	△
15	日進公民館		△	×	×	32	防災の家		○	×	×
16	東部市民プラザ		○	△	△	33	西端下区民館		○	×	×
17	東中学校体育館		○	○	○	34	西端保育園		○	×	×
						35	中部公民館		○	○	○

凡例 ○：使用可 △：上層階のみ使用可 ×：浸水のため使用不可 ※災害規模により開設しない避難所もあります。

家庭での備蓄

大規模災害の発生直後は、被災地に支援物資が届くまでに時間がかかることを前提として、国は1週間分以上の備蓄を呼びかけています。食料は長期保存できる非常食だけでなく、食べ慣れているものがあると、より安心です。また、即席めん、缶詰、レトルト食品などを多めに購入しておき、順番に使いながら備えることで、賞味期限切れを防ぐ方法がおすすめです。

非常持出袋の準備

非常持出品はまとめて、すぐに持ち出せるようにしましょう。持出品は男性で15kg、女性では10kgまでが目安です。また、持出品の使用期限を定期的に確認しましょう。

災害発生直後、避難所には食料が充分にないため、避難所へ行くときには、家庭で備蓄している食料を持参してください。ただし、災害発生直後に津波警報が発令されている場合は、備蓄品を持たずに、まず命を守るための避難行動を取ってください。家庭での備蓄品は、津波警報が解除された後、自宅へ取りに戻りましょう。



非常持ち出し品の例

食料品	日用品
<input type="checkbox"/> 水（1人1日3リットルが目安）	<input type="checkbox"/> 懐中電灯
<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ、イヤホン
<input type="checkbox"/> 粉ミルク、哺乳ビン	<input type="checkbox"/> 予備電池
感染症対策用品	
<input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/> 卓上コンロ
<input type="checkbox"/> 体温計	<input type="checkbox"/> ライター
<input type="checkbox"/> アルコール消毒液など	<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー
衣類	
<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/> 携帯用トイレ
<input type="checkbox"/> 衣類	<input type="checkbox"/> おむつ
<input type="checkbox"/> 下着	<input type="checkbox"/> 生理用品
<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ビニール袋
	<input type="checkbox"/> 旅行用携帯ハブラシ
貴重品	
<input type="checkbox"/> 現金・小銭など	<input type="checkbox"/> めがね、コンタクトレンズなど
	<input type="checkbox"/> 入れ歯など

アレルギー対策は各自で

市の備蓄は、全てのアレルギーには対応していません。アレルギーがある人は、各自で必要なものを備蓄してください。アレルギー症状が出てしまっても、大災害後はすぐに適切な治療が行えるとは限りません。十分な注意と日頃の備えをお願いします。また避難所では、以下のことに注意してください。

食物アレルギー

非常食、炊き出しでは、食べられるもの、食べられないものがあります。周囲の人に周知・理解してもらい、貴重な支援食であっても、原因物質が含まれていれば食べないよう注意してください。

ぜんそく

ほこりやたばこ、たき火などの煙で発作になることがあるので、必ずマスクをつけましょう。

フェーズフリーという考え方

日常時も災害時も、変わらずに活用できる「フェーズフリー」という考え方があります。災害時に使うものを別に用意するのではなく、普段使う道具やサービスなどを、災害時でも使えるものに変えていくという考え方です。身の回りのモノやサービス、考え方などを、少しずつフェーズフリーなものに変えていくことで、防災の備えを進めることができます。

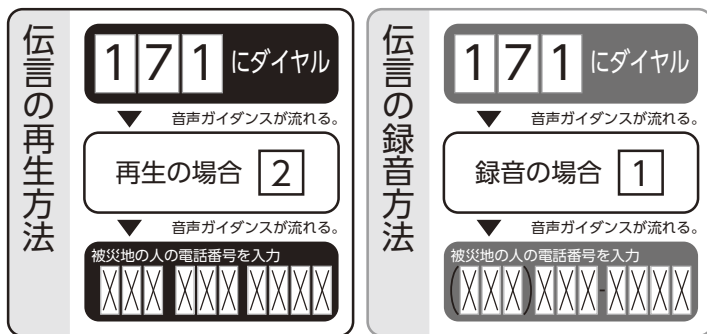
例えば…

- ・バーベキューなどで使うアウトドアグッズは、災害時にも役に立ちます
- ・自動車をPHV車にすれば、停電時にも家の電源として使えます
- ・デスクライトが取り外せて、懐中電灯として使える商品があります



災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルは、災害発生時に電話がつながりにくくなったときの、安否確認や居場所などを登録することができる伝言サービスです。登録者の電話番号を知っている人であれば、伝言内容を聞くことができます。

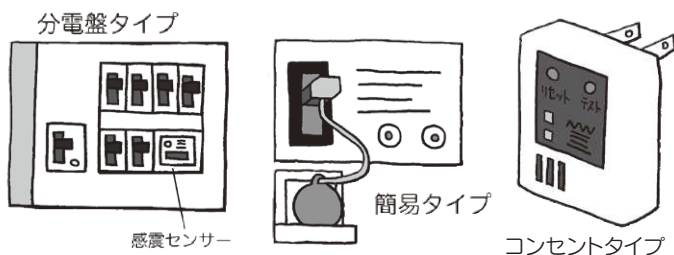


感震ブレーカー

地震による電気火災を防ぐため、感震ブレーカーをつけましょう。東日本大震災における火災の発生原因のうち、過半数が電気火災でした。

感震ブレーカーとは

地震発生時に設定値以上の揺れを感知すると、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具のことです。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕が無い場合に電気火災を防止する有効な手段となります。



3 身の回りは安全ですか？

回りのものが危険物に

地震が起きたとき、揺れでけがをしないことが第一です。建物の耐震化とともに、自宅や職場などの身の回りを確認しましょう。倒れたり動いたりしそうなのは、しっかりと固定しましょう。

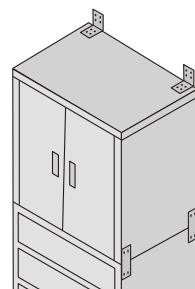
家具転倒防止事業

市では、高齢者や障害者を対象に、無料で地震などによる家具の転倒を防止する固定金具の取り付けを、対象となる家具5点まで無料で取り付けます。借家やアパートに住む人は家主の了解が必要です。

- 対象者**
- ・65歳以上の人のみの世帯に属する人
 - ・身体障害者手帳（1・2級）を所持する人
 - ・精神保健福祉手帳（1級）を所持する人
 - ・IQ35以下の人（IQ値は療育手帳の判定による）

対象となる家具 洋服たんす、整理たんすなど

☎ 高齢介護課高齢福祉係 ☎95-9888



助け合いはできる範囲で行いましょう

災害時の助け合いは、とても大切ですが、助け合いをしたために、自分や家族が犠牲になってはいけません。自分や家族の安全が確保できる範囲で協力しましょう。隣近所の人を助けられる余裕が持てるように、自分や家族の備えを十分に行いましょう。

臨海公園大芝生広場を防災ヘリポートに指定しています

今後、防災ヘリコプターなどによる患者輸送や訓練が実施されます。ヘリコプター飛来時は、砂ぼこりなどが舞い上がる可能性があります。訓練する前には、広報へきなんや碧南消防署ホームページなどでお知らせしますので、大芝生広場周辺からの移動、洗濯物の取り込み、自宅の窓を閉めるなど協力をお願いします。

